

統合失調症

統合失調症は、およそ 100 人に 1 人がかかるといわれている病気です。脳の様々な働きをまとめることが難しくなるため、こころや考え方がまとまりづらくなってしまいます病気です。治らないイメージをお持ちの方もみえると思いますが、適切な治療を継続することで、こころの働きの多くの部分は保たれ、多くの患者さんが回復して、生活の幅をひろげています。高血圧や糖尿病などの生活習慣病と同じように、早期発見、早期治療、薬物療法と本人・家族の協力の組み合わせ、再発予防のための治療の継続が大切な病気です。



統合失調症にはこんな症状があるよ

幻覚・・・実際にはないものが感覚として感じられることです。統合失調症で最も多い幻覚は幻聴です。

(例) 誰もいないのに人の声が聞こえる、他の音に混じって声が聞こえる、など。

妄想・・・明らかに誤った内容であるのに信じてしまい、周りが訂正しようとしても受け入れられない考えのことです。

(例) すれ違う人が自分を襲おうとしている、近所の人を咳払いが自分への警告だ、道を歩くと皆が自分を見る、警察が自分を尾行している、など。

その他・・・会話や行動のまとまりが障害されます。

(例) 話のピントがずれる、話題が飛ぶ、話のポイントや相手の考えがつかめない、意欲の低下、感情の平板化、など。



生活や仕事をする上でこんな障害があらわれることもあるんだよ

上記のような症状のために、周囲から「社会性がない」「気配りに欠ける」「怠けている」などの誤解を受け、日常生活や社会生活に支障をきたすことがあります。



統合失調症の治療は薬物療法と心理社会的治療の組み合わせだよ

治療は外来治療が中心です。入院治療は、幻覚妄想によって行動が制限され、通常の日常生活を送ることが困難だったり、病識に欠け服薬や静養など治療に必要なことが守れないなどの場合に行われます。

薬物療法の中心となる薬は抗精神病薬です。薬物療法は再発を防ぐためにも重要です。

心理社会的治療とは、病気や薬に関する学習を通して治療の重要性についての理解を深めるための心理教育や精神療法、リハビリテーションのことです。

こころぼからのアドバイスだよ



＝統合失調症のご本人へ＝

診断や治療に疑問や不安が生じた時は、少し勇気をもって主治医に確認することをお勧めします。副作用などで薬を飲むのがつらくなったら、薬の量や種類、組み合わせを調整したりすることで副作用が軽くなることがあります。薬剤師や看護師に相談することも、病気に立ち向かうための仲間を増やすことになり、よりよい治療へつながっていきます。

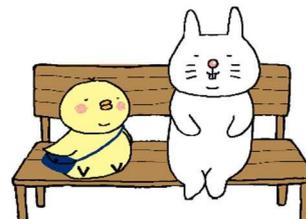
＝ご家族や周囲の方へ＝

精神科の病気は目に見えないため、周囲の方にはなかなか理解しにくいものです。家族は「分からない」、ご本人は「分かってもらえない」というストレスを抱えることになりがちです。病気についての理解が進むと、そうしたお互いのストレスが減ります。治療にどのように協力すればよいかかわると、そのことが病状や経過によい影響を与えます。

《接し方のポイント》

- ①病気とその辛さを理解する
- ②医療チームの一員になる
- ③接し方を工夫する
- ④自分自身を大切にす、といったことが大切です。

◎分かりやすい言葉 ◎より具体的な言い方
◎ゆっくり話す
◎幻覚妄想には強く否定したり、肯定せず、感情に寄り添う



名古屋市いのちの支援広報キャラクター
「びよ吉」「うさじ」 ©becco